

#111 EXPRIDE G-Tech Sports GT/R はホームコース鈴鹿での第3戦の後、第4戦富士でのレースウィークを迎えた。

9月3日の公式予選に先駆け、1日(木)から練習走行を開始。金曜日の専有走行では、朝の1番目のセッションで、ST4クラスのトップタイムをマークするほどの好調さをみせた。

「木曜日に少し走って、クルマはブレーキバランスの見直しとクーリング関係を対策してきました。金曜日は1本目でクラストップタイムをマークできたので、3本目はキャンセルしてクルマのセットアップを行っていました」と大瀧賢治。

「マシンは鈴鹿から様々な箇所をアップデートしてきて、いま最もポテンシャルが高いね」と武井寛史。

そして迎えた公式予選。土曜日の富士の天候は晴れ。朝から汗ばむ陽気の中、A・Bドライバーとも決勝進出をかけた予選がスタートした。Aドライバーのセッションで懸命のタイムアタックを行い1分58秒414でクラス4番手の好タイムをマーク。Bドライバー武井は58秒357でこちらも好位置の8番手とした。

Aドライバー、Bドライバーが通常通りの計時セッションを走り、その合計タイムでスターティンググリッドを決定するスーパー耐久シリーズのいつものルールで、3分56秒771のST4クラス6番手のスターティンググリッドを得ることができた。

「決勝レースを見据え、予選前に駆動系を交換しました。アウトラップは慣らし走行で2,3周目にタイムアタックをしました。明日は9時間の長丁場なので、マシンバランスのよいクルマで、アドバンテージを築いて戻ってこれればと思っています。たぶんスタートは僕だと思いますので(笑)」と大瀧は笑みを浮かべた。

「もうちょっといける、トップも狙えるポテンシャルはありました。けれども、そんなには甘くなかったですね(苦笑)まあ、予選はそんなにこだわらず、レースディスタンスは9時間なので決勝レースに照準をさだめてます」と武井。

そして9時間の長丁場の今回、チームには強力な助っ人が加わった。かつて2004年までのスーパー耐久、そして2005年までのJGTC、SGTレースでRX-7などで活躍した松本晴彦選手がDドライバーとなった。

「思ったより乗りやすいクルマでした。ストレートが速いのでコーナーで丁寧に走ればいいんです。ターボでトルクもあってラクですね。足を引っ張らないように走りたいです」と笑顔をみせた。86レースとのダブルエントリーの忙しさだが、ベテランの余裕をみせていた。

また、Cドライバーには若手の今井龍太が参加。千葉県出身でN0(エヌゼロ)ロードスターレースからFJ1600、さらにここ富士でのスーパーFJで2014年にシリーズチャンピオンを獲得している逸材だ。

「木曜日に入ってまずはクルマに慣れるのに精いっぱいでした。予選アタックも一生懸命がんばりました。決勝レースはコンスタントに走れるように、S耐のデビューレースに挑みたいです。チャンスをいただいたG-Techさんに感謝しています」と今井。

決勝レースは、明日9月4日の午前9時から9時間レースで行われる予定だ。

。